

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
更生保護制度		必修 (社) 選択 (精.心)	1	2.3	後期 (前半)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
渡邊 隆文	B307	t.watanabe		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 非行少年や罪を犯した人 (特に高齢者や障がい者) が社会で再びその人らしい生活ができるよう、その立ち直りを支援する更生保護等について、基本理念や法制度および担い手と援助方法等を理解することを目標とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 非行少年や罪を犯した人に対して、その再犯を防ぎ、更生させるための施設内処遇から社会内処遇への移行や実施の手だてや仕組み、支援のあり方等を社会福祉と関連させながら概説する。一方向の講義だけでなく、受講生同士のディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を活用し理解を深める。</p>				
学 習 上 の 助 言	社会福祉士国家試験科目と重複する部分もあるため、関連づけて復習しておくことが望ましい。				
教 科 書	新・社会福祉士養成講座 20 第 4 版 更生保護制度/編：社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	相談援助活動において必要となる更生保護制度について説明できる。			HSU(2)、(3)、WP (5)	
②	更生保護や刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体および専門職について説明できる。			HSU(2)、(6)、WP (5)	
③	刑事司法・少年司法分野の他機関との連携の在り方について説明できる。			HSU(2)、(6)、WP (5)	
④	自分と他人との価値観・考え方の違いを理解し、説明できる。			HSU(6)、WP (3)、(4)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (講義の概要・講義の進め方・評価方法についての説明) 罪を犯した高齢者・障害者の現状と支援について学ぶ。	同時双方向型授業	内容の復習を行う。		1.5
2	犯罪者・非行少年に対する司法の流れについて学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		2
3	犯罪者・非行少年に対する支援の実際について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		4
4	更生保護制度の概要 更生保護、保護観察、仮釈放、生活環境調整、更生緊急保護、被害者等支援、恩赦、犯罪予防等について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		2
5	更生保護制度の担い手 保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		2
6	更生保護制度における関係機関・団体との連携 検察庁、裁判所、矯正施設、就労支援機関、福祉機関等との連携について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		2
7	医療観察制度の概要 医療観察法、生活環境調査、生活環境調整、精神保健観察、関係機関との連携等について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		2
8	全体を通して重要な箇所を再度学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。フィードバックを基に前回の確認を行う。		4.5
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照	/			

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に筆記試験（選択式）を実施して評価する。 出題範囲は、講義中に用いた教科書・配付プリントから中心に出題し、理解度を問う。				試験結果を掲示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		講義中に理解を深めるために受講生間のディスカッションやワークを実施する。講義をただ受ける受動的な姿勢でなく、積極的に学ぶ姿勢であるかを評価する。				同時双方向授業中、また最後の講義中にて総評を行う。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Microsoft Teams をつかった同時双方向型授業を行う。 課題ダウンロードや映像共有を行うため授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励する。 尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>社会福祉士取得希望者は必ず履修すること。 「授業計画」の事前事後学習に加え、講義中に紹介した司法福祉に関連する図書、映画、動画資料などを閲覧し、幅広い視野から相談援助技術の素養をさらに深めることを課題として課す（20 時間）。</p> <p><b>教員の実務経験：</b>社会福祉士取得後 6 年の実務経験。 <b>実践的授業の内容：</b>教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。</p>							